

## 年頭あいさつ

社団法人 日本監査役協会  
会長 築館 勝利

皆様、新年明けましておめでとうございます。新年にあたり、日本監査役協会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、官界、学界、関係諸協会など、各界を代表する大勢の方々にご出席を賜りまして、誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。

### 1. 昨年の回顧

年の始めに当たり、改めて昨年を振り返ってみますと、実に、誠に激動の年であったという思いがいたします。私たちは、いつの時にも、「昨年は大変な年だった、今年は容易ならざる年だ」などと考える傾向があるのですが、昨年に限っては、文字通り、正に大激動の年でありました。

私たち監査役も、通常とは違うレベルの緊張感を抱きながら、その職務に取り組んだ1年間でありました。企業の事業運営や収支への社会的な関心が高まるなど、経営環境が極めて厳しくなる中で、監査役の究極的な使命であるコンプライアンスの徹底と企業不祥事の未然防止に、全力で取り組んだ次第でございます。

厳しい経済情勢は、当面変わらないと思われますので、私たち監査役といたしましては、現在の緊張感を持続しながら、新しい年に臨んでいく必要があると思っております。

### 2. コーポレート・ガバナンスを巡る状況への対応

ところで、昨年は、一昨年に続いてコーポレート・ガバナンスを巡る議論が活発に行われた年でありました。行政当局や学界、そして民間の関係団体などで、いろいろな議論が行われ、その集約としての報告書がいくつも公表されました。

私ども日本監査役協会も、各界の有識者から成る懇談会を一昨年3月に立ち上げ、監査役の立場から見たあるべきコーポレート・ガバナンスの姿に関する1年間に亘る熱心なご議論をいただき、昨年3月にその報告書を頂戴致しました。

そして昨年4月以降、監査役協会内に、テーマ毎に議論を行うための三つの検討チームを設置し、昨年9月に、その中間的な考え方の整理を行いました。今後についてですが、来たる3月末を目標にしながら、協会としてのコーポレート・ガバナンスに関する全体的な取りまとめを行っているところであります。

私たち監査役は、企業のコーポレート・ガバナンスの一翼を担いながら、正に産業の現場に足を下ろしている立場であります。従いまして、有識者の方々の高いお立場からの理念やご意見と、産業現場の実情・実態を、きちんと、そして丁寧にブリッジしていくことが必要になります。

監査役協会といたしましては、監査役が目指すコーポレート・ガバナンスについて、多くの現役の監査役の納得と賛同を得るためには、そのブリッジのプロセスが極めて重要不可欠と考えまして、昨年4月以降、春秋2度の全国会議で議論を深めるなど、努力を重ねて参りました。そして、本年4月の次回全国会議で、全体的な取りまとめ内容を協会員に示し、自らすぐ実践できることについては、速やかにその取り組みを始めるとともに、法制度その他の改正にまで及ぶ事柄については、関係方面に着実に働きかけをしていきたいと考えているところであります。

### 3. 企画・調査機能の強化

次に、日本監査役協会の内部体制について、少し触れさせていただきます。政権交代などがあった昨年に続く今年も、会社法制やコーポレート・ガバナンスを巡る様々な動きがあることが予想されます。

それは私たち監査役にも直接・間接に関係してくるでありましょう。従いまして、当協会としては、従来にも増して、情勢を調査分析し、対応方針や施策を企画していく機能を強化していく必要性を強く感じまして、事務局の常勤理事体制を強化するとともに、企画部を設置いたしました。併せて、常設の基本問題検討委員会を新設いたしまして、コーポレート・ガバナンスを巡る情勢の変化に、的確に対応して参りたいと考えております。どうか、皆様方の引き続きのご理解・ご指導をお願い申し上げます。

最後になりますが、本日までご出席下さいました皆様のご多幸、ご健勝を心から祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

以上

(平成22年1月7日 当協会 新年賀詞交歓会にて)